

劇場で、偶然みつける

——創造と研究の手がかり、
「ラボラトリー機能」の可能性について

シンポジウム



田村友一郎《テイストレス》(2021年)



檜垣智也 × 吉増剛造 × 七里圭
サウンドオペラ電子音響詩劇
「石巻(イシノマキ)ハ、ハジメテノ、紙(カミ)ノ声(コエ)、……」試演(2023年)
撮影：井上嘉和



岡田裕子《Celebrate for ME: okuru》(2024年)
© OKADA Hiroko

Place yourself in the coffin.

2024
11.4 (月・祝)
14:00~17:00
※開場・受付開始13:30
会場：京都芸術劇場 春秋座

京都芸術大学舞台芸術研究センターでは、これまで京都芸術劇場を活用して、さまざまな研究事業を行ってきました。本シンポジウムの前半では、アーティストと研究者・技術者が共同研究チームを組み、創造のプロセスを構築してきた最近のプロジェクトについて、ダイジェスト映像・関連映像の上映を交えて振り返ります。また後半では、高嶺格氏(アーティスト/多摩美術大学彫刻学科教授)、山本麻友美氏(京都芸術センター副館長/京都市文化政策コーディネーター)、吉岡洋氏(京都芸術大学文明哲学研究所教授/美学芸術学)、森山直人氏(多摩美術大学美術学部教授/演劇批評)に登壇者に迎え、「劇場で、偶然みつける」というテーマで公開の共同討議を行います。

スケジュール

- 14:00 開式 挨拶等
- 14:10 研究活動の報告、ダイジェスト映像等の上映
- 15:30 公開シンポジウム
- 17:00 閉会

お申込み

参加対象：どなたでも参加いただけます
参加料：無料(要事前申込)
※右のQRコードよりお申し込みください

お申込フォーム



Webサイト



登壇者



高嶺格 Tadasu Takamine

アーティスト。多摩美術大学彫刻学科教授。1968年生まれ。90年代初頭より、パフォーマンスやインスタレーション、ビデオから工芸的手法まで多彩なアプローチの作品を発表。美術作品の傍ら、舞台作品、または舞台のコラボレーションも数多く手掛ける。90年代にダムタイプのパフォーマンスに参加。「性」の問題などにも触れながら、異なる背景や価値観を持つ他者への接触と困惑、更に相互理解を志向するプロセスを真摯に表現する。



吉岡洋 Hiroshi Yoshioka

1956年京都生まれ。専門は美学芸術学。京都芸術大学文明哲学研究所教授。京都大学名誉教授。京都大学文学部哲学科(美学専攻)、同大学院修了。甲南大学、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)、京都大学大学院文学研究科教授、京都大学こころの未来研究センター教授を経て、2022年4月より現職。著書に『情報と生命-脳・コンピューター・宇宙』(新曜社、1993)、『<思想>の現在形-複雑系・電脳空間・アフォーダンス』(講談社、1997)など。



山本麻友美 Mayumi Yamamoto

京都芸術センター副館長、京都市文化政策コーディネーター、KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭実行委員長。2000年の開館当初から、京都芸術センターにて国際共同プロジェクトや展覧会等、若手芸術家の育成、支援を目的とした多様な事業に携わる。京都芸術センターチーフプログラムディレクター(2016-21)、京都市文化芸術総合相談窓口(KACCO)ディレクター(2020-21)等を経て現職。2019年から研究会「新しい文化政策プロジェクト」プロジェクトメンバー。



<司会> 森山直人 Naoto Moriyama

多摩美術大学教授、演劇批評家。京都芸術大学舞台芸術研究センター 舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点運営委員。2001-2022年3月まで、京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員、機関誌『舞台芸術』編集委員。2012-2020年まで、KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭実行委員長。現在、京都芸術センター運営委員(2012-)、及び独立行政法人日本芸術文化振興会・演劇分野プログラムディレクター(2024-)。著書に『舞台芸術の魅力』(共著、放送大学教育振興会)など。

主催・お問い合わせ 京都芸術大学 舞台芸術研究センター 舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点
TEL:075-791-9144 E-mail: kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp (事務局)

京都芸術大学

共同
利用 共同
研究

since 2013